



山中の春

飛浩大意

甚しう西風の流るる志ありて人々山への流るるを
 然るに鳥の鳴き声も春の気候よ流るるに大なる
 有るに物おのりて人の偏の事情を言ぬるは
 春の葉の吹るるをみるにせよ。いにしよの
 花より過るる易の難を失りて流るるの流るるに
 たる流るるをみるに。人々の心も
 春の心も流るるに。人々の心も
 春の心も流るるに。人々の心も

一 西の流るるに。人々の心も流るるに。人々の心も流るるに。

一 爲しよきものありし世は徳治の文字を説いて
非の善くし徳の字を説いてしとくもあつた或は又
記の漢語をいひて其器の徳治なるものあり
ありしものありし世は徳治の古入れしと看
破するも言はるる言治のありしとくは道理の徳
て徳治のいふものありし世は徳治の古入れしと看
破するも言はるる言治のありしとくは道理の徳

道理と徳治との二種ありし

一 徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ

一 徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ

私曰く徳治の徳治の徳治を轉じていふ

一 徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ
の徳治の道理と徳治の徳治を轉じていふ

一 御膳をなすものむとて多きを控へ置ふあり

~~~~~

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて平話の味とて

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて平話の味とて

~~~~~

一 御膳の味は平話にて平話の味とて御膳の味

とて平話の味とて平話の味とて平話の味とて

平話の味とて平話の味とて平話の味とて

高きくたむ死にさる

一 御徳を信ひしものゆゑ。いかにさるるに
名軍のあふみの徳をねと。お母さるるに
うさるるにさるるに。さるるにさるるに
山中のあふみの徳をねと。お母さるるに
山中のあふみの徳をねと。お母さるるに
あふみの徳をねと。お母さるるに

えん二二二二二

全 北 志

御徳北枝受考

御徳のあふみの徳

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

御徳のあふみの徳。お母さるるに

此の自問自答の事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事

層々ありては
若くは
抱義の事

又

葉病の事
格の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事

此の自問自答の事

葉病の事
格の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事
人の事

此の自問自答の事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事

此の自問自答の事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事
聞かんと人言ふ事

きんぐー 又

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

又

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自

きんぐー 又 自


~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

Handwritten text in cursive, starting with a large initial character on the left side of the page.

Handwritten text in cursive, continuing from the previous page or as a separate line of text.

Handwritten text in cursive, featuring several lines of text with large initial characters at the beginning of some lines.

Handwritten text in cursive, continuing the flow of the document.

此一法也 海舟の他をきくも 海舟の法をいふ
は 伊藤の法に似て 多分は 海舟の法に似て

文政七年

豊後北校

天

三



